

農林課長の仕事宣言！ 進行管理表 ①

農林課長 井田 勝

重点事業の概要 [事業名：地産地消の取組を進めます。]

[目標値：5年後の給食における地元産品使用率 54.5%]

- ・地元の農産物を利用した郷土料理による地域の賑わい創出事業を進める。
- ・小学校給食の食材提供事業の検討を行う。
- ・生産者と消費者の交流イベント事業を進める。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	「シェフと農家で育てる産地物語」として、地元飲食店と協賛し、第1弾としてアスパラガスの食べ歩きフェアを開催し、地産地消と地域の活性化に取り組んだ。市内の小中学校を対象に「サガン鳥栖応援どんぶりをつくろう！」をテーマに第14回米米コンテストの募集を行ったところ、小学生、中学生、一般参加者を含め995通の応募があり、コンテストへの12点を選考した。 また、小学校給食における米の使用については、鳥栖市産のお米が全量使用されている。使用量は、自校方式であった今年6月(21日間)の給食では、週3回の米飯給食で4,955kgとなっており、センター化された9月(18日間)の給食では、週4回の米飯給食で6,400kgとなっているため約30%増加している。
	自己評価	フェアの協賛店舗からは、お客様の喜びの声がいただけたなど評判がよく地産地消に寄与している。 米米コンテストについては、全校で取り組む学校があるなど、過去最高の応募数となり、地元産の野菜を使ったレシピも多々あり、地産地消につながる取組となっている。
	下半期への対応	商工振興課と連携し、地元商店街やイベント等を通じてPRを行い更なる地産地消の拡大に努めたい。
下半期	取組実績	「シェフと農家で育てる産地物語」として、地元飲食店と協賛し、第2弾としてマコモタケの食べ歩きフェアを開催し、地産地消と地域の活性化に取り組んだ。 また、学校給食週間においては、市内の各小学校で農業生産者(農業委員等)による地域農産物の紹介や児童からの質問対応など、交流会を実施した。
	自己評価	各関係機関と連携し、計画的に事業を実施した。
	目標値の達成状況	米飯給食の回数増や地元野菜の提供情報等により、地元産品使用率が増加した。
	次年度への対応	「とれたて鳥栖産品」など市報等による地元農産物のPRを図るとともに商工振興課と連携し、地元商店街やイベント等を通じて地元農産物の生産振興や地域活性化へと繋がるよう更なる地産地消の拡大に努めたい。

所管部長(リープロ担当部長)の指示

上半期

今後も民間と連携した取組をお願いします。

下半期

関係機関と調整し地産地消の取り組みを進めて頂きたい。

農林課長の仕事宣言！ 進行管理表 ②

農林課長 井田 勝

重点事業の概要 [事業名：地域ブランドの強化を図ります。]

[目標値：5年後の認定農業者数 68 経営体、家族経営協定割合 35%]

○高収益農産物の導入事業：[事業内容] 地域農産物の調査、導入農産物の検討

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	新規農産物として取り組んでいるマコモタケの26年度産定植状況、今後の活動・取り組み内容の検討を生産者で行った。
	自己評価	マコモタケのブランド化を目指し、生産者、JA、県機関、市町で連携して活動を行っている。
	下半期への対応	9月下旬から10月初旬に収穫作業を行い、JA直売所、ゆうパック等により販売促進を行う。 また、地元飲食店との協賛による食べ歩きフェアの第2弾として、開催するマコモタケフェアや佐賀バルーンフェスタへの出店を行い、PR活動に努める。
下半期	取組実績	バルーンフェスタ会場でのマコモタケ出店及び、市報やホームページへの掲載や児童が作成したマコモタケPRポスターを市民ホールに掲示するなど地元製品のイメージアップに努めた。
	自己評価	各関係機関と連携し、計画的に事業を実施した。
	目標値の達成状況	認定農業者数等については、現状維持である。
	次年度への対応	マコモタケ、アスパラガス等と同様に関係機関と連携し、高収益農産物の導入を検討し、新たな地域ブランドとなるような地元製品に取組みます。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

関係機関と連携して取組んでもらいたい。

下半期

今後も地元製品のPRを積極的に行って頂きたい。